

# 会 議 録

会議名	令和6年度第3回愛川町地域公共交通協議会	
開催日時	令和7年3月28日（金）午後2時00分～午後3時40分	
開催場所	愛川町役場4階 402・403会議室	
出席者	委員	12人（別紙のとおり）
	その他	2人（代理出席）
	事務局	5人（政策秘書課長 他4人）
会議次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開 会</li><li>2 あいさつ</li><li>3 報告事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 地域公共交通計画の策定に係る基礎調査の結果について</li></ol></li><li>4 協議事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 地域公共交通計画骨子（案）について</li><li>(2) 令和7年度事業計画及び収支予算（案）について</li></ol></li><li>5 そ の 他</li><li>6 閉 会</li></ol>	

# 審 議 経 過

( 1 / 9 )

※審議の要旨は次のとおり（○は委員の発言、●は事務局の発言）

次第1 開 会

次第2 あいさつ

次第3 報告事項

（1）地域公共交通計画の策定に係る基礎調査の結果について

●（資料1に基づき説明）

○（委員A）高齢者は何歳から設定しているのか。

●65歳からとしている。

○（委員B）資料1-4のP8町内の公共交通人口カバー率であるが、1日あたりの便数を30本として、運行本数はカバー圏に含めない事例もあると思う。94.3%はすべてのバス停を対象としているとの認識で良いか。

●今回の資料では、運行本数に関係なくカバー率を整理した。資料の通り、運行本数についても整理している。資料としての交通空白地域の示し方については事務局で今後検討したいと考えている。

○（委員B）県下でも比較的バス交通の利便性が良いとの説明があったが、今後の方向性を検討する上では、交通空白地域があるとの前提で議論を進めるのが良いのではないだろうか。

●ご指摘いただいた点を踏まえて、課題認識・方向性を整理していきたい。

○（委員C）国道・県道等の幹線にバランスよく路線バスが配置されており、町内を1日500本以上運行している。課題の認識としては、バス停までの距離は近いが、山・

## 審 議 経 過

( 2 / 9 )

坂があるなどラストワンマイルといった移動手段を補完できないかと考えている。フリーダー的な路線などが求められているのかと思う。路線バスを軸にきめ細やかな交通が必要になってくるのではないかと考えている。

○（委員D）聞き取り調査の結果から、学生の通学利用が多いように感じる。高齢者はマイカーでの移動が染みついてしまっている方もいるので、通学における重要性がこれから増してくるかと思う。学生の声を反映する必要があると思うが調査は実施しているか。

●学生世代については、アンケートの対象となっている。また、聞き取り調査でもご意見は伺っているほか、教育委員会との意見交換も実施したところである。

○（会長）資料1-1の町民アンケートの学生比率が低いため、学生の移動実態に関する補足はあった方が良くもしいない。先ほど説明いただいたヒアリング等の中で、すでに確認できているのであれば、わかるようにしていただきたい。また、バス利用状況の調査をすると、バス利用率が一桁という自治体は多く、十数%ある本町は、利用頻度が高いといえる。この高い利用率に、バスの現状がマッチしているかの確認は必要かと思う。

○（委員E）資料1-4のP7・8においても循環バスの情報があるとよい。

●P8カバー率については、循環バスも含まれている。資料の見せ方については工夫する。

○（委員F）学生の通学に関して意見が出たので、話題提供をさせていただく。厚木方面への通学が多いのではないかと思うが、相模原方面に通う学生もいるのかと思う。

例えば、相模原の橋本付近の高校に通うとして、居住地によっては、田名経由よりも串川橋経由の方が便利との話もあるようであり、運行本数も確保されているそうである。高校生にとっては、特に朝の便数においても重要な事項になるのかと思う。このほか、愛川町、厚木市、清川村が合同で運転士の募集を支援しているといったことも理解し、考えていく必要があると考えている。

#### 次第4 協議事項

##### (1) 地域公共交通計画骨子（案）について

###### ●（資料2に基づき説明）

○（委員A）骨子の課題整理ということで、弊社の課題・現状をお伝えさせていただく。この4月より、札幌や名古屋での廃止・減便がニュースとなっているが、弊社も同じ状況である。弊社の乗務員の平均年齢は、現在53歳となっている。乗務員の採用を進めているが、去年よりも応募が少なく、採用状況も対前年比で60%程度となっている。また、待遇改善を進めているが、一定程度の退職があり、定年退職を含めると、乗務員数は減少している。今までは、乗務員の残業、休日出勤によって乗務員不足を補ってきたが、2024年問題で乗務員が働ける労働時間の規制が強まった。利用者の出勤前の時間から退勤後の時間に対応しないといけないため、非常に労働時間が長く、365日運行しないといけないため、応募される方は40・50歳代で、若い方からはほとんどない。引き続き乗務員の待遇改善を図っていくが、この傾向のままでは乗務員は年々減少していってしまう。骨子の中で、町全体として何とかしようという方向性を

記載いただき大変ありがたいが、施策の持続可能な交通体系の構築の中で公共交通幹線軸に該当する路線バスの維持・確保と記載については、大型バスが必要な路線には大型バスを維持し、利用者の少ない箇所をどうするのかといったことを計画の中で検討いただき、愛川町の公共交通を維持できるように一緒に考えさせていただきたい。

大変申し訳ないが、現在のバス路線を維持するのは非常に難しい状況にある。運行本数の維持も難しく、年に1回2回ダイヤ改正をさせていただいており、この状況が当面続くため、計画の内容にも考慮いただきたいと考えている。

○（委員G）先ほどの内容と関連するが、1点目は、限られた資源の中で効率的に運行することで、利用者の足を確保していくことはできると考えている。効率化の視点のとして、バス専用レーン・優先レーンの設置や公共交通を優先するPTPSという信号機の優先制御するシステムのような走行環境の整備による効率的な輸送の視点を入れていただきたい。また、効率化の視点では、資料1-1のP14の支払い方法に関して、現金支払いが約1割、高齢者の場合、無回答等も含めると更に多いのではないかとと思われる。キャッシュレス化が進むことで降車時間の短縮につながる。かなちゃん手形も改正されより使いやすくなると思われる。交通事業者と行政で連携してキャッシュレス化を進めていただきたい。さらに、使いやすい公共交通の実現について、バス待ち環境やバスロケーションシステムが整備されていれば、運行本数や乗り継ぎの点で我慢いただける側面もあるため、こうした視点も取り入れていただきたい。

○（委員B）交通事業者から現状・課題について説明いただいた内容を踏まえ、骨子を見ると内容が抽象的に感じる。愛川町として、みんなが公共交通に乗って維持する

のか、社会情勢を踏まえ、減便することを前提に、それにあった生活に変えていくのかどちらを目指しているのか分からない。私は公共交通にみんなで乗って交通事業者に維持してほしいとのメッセージを出すのが良いのかと思う。また、バス待ち環境は、行政や地域で整備するやバス停は減少するが、サイクルアンドバスライドのように、バス停付近に自転車置き場を作るから、バス停まで自転車を活用しましょうといった維持のために利用しましょうといったメッセージを出すべきではないかと思う。

●骨子案の考え方についてご質問いただいたが、今回の議題は骨子案の段階のため、抽象的な表現となっている。来年度、具体的に施策を検討していくことになり、その中でご質問いただいたような内容を1つ1つ具体化し、計画として完成させていく予定である。

○（委員F）関連した内容として、町外への移動は自家用車が多い。最近では駐車料金が3万円との話も聞く。それであれば、公共交通を利用した方がいいのではないかと発想に誘導できるのではないかと感じた。また、前回も話題提供したが、隣の自治体の鉄道駅まで、コミュニティバスを運行している自治体もあると聞く。できなは別として、検討していただきたい。

○（委員C）公共交通に対して、公費を投入する必要があると考えている。総合計画の満足度からも公共交通の満足度は低く、満足度を高める必要があると考えており、公費を投入する妥当性・公益性を整理し、議会の理解を得たうえで、取り組みを進めていきたいと考えている。また、骨子が抽象的であるとのことご意見であるが、説明の通り、今回は、取り組みの方向性までが議題であり、その後、施策を具体的に検討して

いく中で肉付けしていきたい。効率化のほかに、道路整備についても、記載が必要と  
考えており、次回の会議で、具体的な内容について、お示しできればと考えている。

○（委員D）交通事業者に伺いたいですが、旅客事業の赤字を他事業で補填していく事例  
をニュースで見たが、その考えはないのか。また、別の話になるが、今後、ライドシ  
ェアを検討していくことがあれば、タクシー券を補助し、タクシーを相乗りしてもら  
い、公共交通を活用してもらう方法もあると思う。

○（委員A）弊社も不動産事業等の他事業も実施している。また、今までは、赤字路  
線を黒字路線でカバーしてきたところであるが、現状、乗務員が不足しており、赤字  
路線、つまり、利用者の少ない路線について減便・廃止の協議を進めざるを得ない状  
況である。乗務員不足の解消として、自動運転や外国人採用がすぐに反映できるとも  
限らないため、現状は採用活動に注力しているところである。

○（委員C）先ほどの話に戻ってしまうが、骨子が抽象的とのご指摘に対して、例え  
ば、基本目標③「公共交通をみんなで考えるまち」を「公共交通をみんなで考え支え  
るまち」とワンフレーズ入れると効率化、バス待ち環境改善等を網羅できるのかと思  
う。

○（会長）同意見である。「支える」との一言があるだけで、広がりがある。また、こ  
こ数年で策定されている地域公共交通計画の中で、「乗務員の確保」等の人材確保を自  
治体として謳う例がある。目標もしくは施策のいずれかに入ってきて良いのかと考え  
ている。また、先ほど意見にあった、公共交通に誘導していくといった考え、流れを  
作ることもについても、5章で検討いただきたい。目標については「支える」を追加い

## 審 議 経 過

( 7 / 9 )

ただき、5章の内容を検討いただきたい。

●先ほどのタクシーに関するご意見も踏まえ、具体的な施策を提示し、ご議論いただけるよう検討を進めていく。

○（委員E）広域的なバス路線も多いので、県の計画も参考になるかと考えている。

○（委員D）外国人ドライバーを採用している事例は全国的にあるのか。

○（会長）利用者との接する場面が多いため、事例はまだない。日本バス協会も打ち出しているが、具体的には進んでいない印象である。整備士については、事例は伺っているが、ドライバーについてはまだ話を聞かない。

○（委員A）バスドライバーは、お客様をご案内する関係で、N3という資格を有するなど、日本語をある程度しゃべることが条件となっている。日本の普通免許を取得した後、大型免許を取得する必要がある、更に1年で実施する必要があるため非常にハードルが高い状況にある。

●愛川町の外国人居住者は、人口の9%と非常に高い地域である。将来的には、外国籍のドライバーについても検討していければと考えている。交通事業者とも意見交換をさせていただいており、方向性として示すことができるかは検討していく。

○（委員G）課題⑤の役割分担に関して、資料1-2の外出目的で、半原において観光利用が確認でき、観光シーズンではもっと利用者が多いのではないかと考えられる。

役割分担の考えであるが、観光であれば、交通部署、観光部署、庁外の団体であれば観光協会が考えられる。高齢者への対応であれば福祉局など、それぞれのニーズにあわせて連携も検討いただきたい。そのほか、学校関係での連携もあるのかと考えてい

る。役割分担について整理いただく際に、幅広く連携していくことについても検討いただきたい。

●地域公共交通については、全庁的な課題として認識している。関係部署へのヒアリングも今回実施したところであるが、引き続き全庁的、横断的に検討していく体制で進めていきたいと考えている。

○（会長）4章については、「支える」を追加・修正いただき、方向性については了承いただき問題ないか。

（異議なし）

○（会長）4章の修正と5章以降については、次回、案を提示いただき、進めていければと考えている。

（2）令和7年度事業計画及び収支予算（案）について

●（資料3に基づき説明）

○（会長）説明の通り進めていくことで問題ないか。

（異議なし）

次第5 その他

○（委員A）「かなちゃん手形」について、3月10日より「かなちゃんパス」として、フリーパスのICT方式に変更させていただいた。神奈川中央交通の全路線に乗車可能な1年券となっている。年間5万4千円であるが、365日で割ると1日あたり150円

# 審 議 経 過

( 9 / 9 )

程度となる。「かなちゃん手形」についても6月まで販売は継続させていただく予定である。キャッシュレス化を進め、乗務員の負担軽減のためICT方式に変更させていただいたことをご理解いただきたい。

次第6 閉会

令和6年度第3回愛川町地域公共交通協議会 出席者名簿

No.	選出区分	氏名	団体・役職等	出欠
1	学識経験者	鈴木 文彦	交通ジャーナリスト 日本バス文化保存振興委員会理事長	
2	公共交通事業者等	小堤 健司	一般社団法人神奈川県バス協会常務理事	
3	公共交通事業者等	小嶋 光行	一般社団法人神奈川県タクシー協会理事	欠
4	公共交通事業者等	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社運輸計画部生活交通担当課長	
5	道路管理者	磯辺 隆行	厚木土木事務所工務部長	
6	公安委員会	千葉 正広	厚木警察署交通第一課巡查部長	
7	地方運輸局	宿谷 幸利	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	欠
8	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	河口 健	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 幹事	
9	地域公共交通の利用者	古座野 茂夫	愛川町区長会会長	
10	地域公共交通の利用者	大泉 哲郎	愛川町中学校校長会会長	欠
11	地域公共交通の利用者	馬場 洋一郎	愛甲商工会副会長	
12	地域公共交通の利用者	荒井 英明	神奈川県内陸工業団地協同組合専務理事	
13	地域公共交通の利用者	馬場 紀光	県央愛川農業協同組合代表理事組合長	欠
14	地域公共交通の利用者	足立原 善司	愛川町老人クラブ連合会副会長	
15	地域公共交通の利用者	岡部 真由美	愛川町身体障害者福祉協会副会長	欠
16	地域公共交通の利用者	齋藤 光枝	愛川町婦人団体連絡協議会理事	
17	関係する行政機関	中津川 宗尉	神奈川県県土整備局都市部交通政策課副課長	欠
18	計画を策定しようとする市町村	小川 浩幸	愛川町総務部長	